



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしく願いいたします。



熊本県酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈 部 洋

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

会員・酪農家・関係機関の皆さまには、旧年中のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、やはり新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。変異株の発生と第5波の急激な拡大、そして年末の感染減少など、経済情勢とともに不透明な状況が続いています。

私事ではありますが、昨年7月の全酪連の役員改選におきまして、会長職を拝命いたしました。熊本は北海道、栃木に続き全国第3位の生乳生産量を誇りますが、その全国屈指の酪農県へと育てられた酪農家や関係各位のご支援の賜物であり、その熊本県の酪農があったからこそその就任となりました。常に身の引き締まる思いのなか職務に取り組んでおります。

さて、現在コロナ禍で全国の酪農家は非常に厳しい状況を迎えています。業務用の減少から需給緩和が続き、行き場を失った生乳は脱脂粉乳やバターなどの加工用となり過去に類を見ない在庫量となりました。生乳需給の安定は酪農経営の根幹をなすものですから、全国の酪農家の皆様や乳業者に年末年始の需給安定にご協力をお願いして参りました。一度生産基盤が縮小すると簡単に生産回復できないのが生き物相手である酪農の特徴です。保存できない生乳は在庫を抱えることはできませんので、酪農を守るための国の支援も必要だと思っています。全国の酪農家の負託に応えることができるよう精進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、去年の生乳生産量ですが、北海道・都府県ともに増産傾向が続いています。その一方、春先からの

輸入飼料価格の高騰や需給緩和による乳価への波及など酪農経営が懸念される状況となりました。このような状況下、本会においては配合飼料の高止まりを受けて配合飼料緊急対策や八代TMR飼料の緊急対策に取り組み、飼料の安定供給に努めてまいります。また、さらに生産基盤の維持・強化へ向け新規就農者支援対策に取り組むとともに、担い手支援の強化に努めてまいります。

また、酪農組織再編については、昨年4月には酪農専門農協の4組合の生産者が一つになった県一酪農協の設立に向けた第1ステップが完了し、第2ステップとして組織整備研究会が発足し協議・検討が続いています。本県では総合農協の組織合併によるJAくまもと構想が取りまとめられています。酪農家のための酪農組織の整備が最も重要なポイントです。生産者の皆様におかれましても積極的な参加をお願い致します。

本年は第11次中期経営計画の初年度となります。酪農生産基盤の強化に加え、老朽化し手狭になった冷蔵施設更新や工場内敷地の有効活用など対応すべき課題が多々あり、今後、将来を見据えた計画を策定し報告してまいります。

なお、阿蘇ミルク牧場においては、牛舎増改築と新たな搾乳システムの導入、チーズの熟成庫建設などの設備投資により、乳代の増加や外部販売の増販を図ってまいります。

酪農を取り巻く状況は、飼料の高騰や需給緩和、酪農家の高齢化、後継者不足など様々な問題が山積しております。本年も会員・酪農家、関係各位のご協力をいただきながら、役職員一丸となりまして、生産者の皆様の負託に応えられる事業展開を図ってまいります。今後とも、ご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心から祈念し、1日も早いコロナの終息を願いながら年頭の挨拶といたします。





熊本県知事

蒲島 郁夫

明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会におかれましては、日頃から県政の推進に御理解と御協力をいただきますとともに、酪農・乳業の振興を通じて地域の活性化と産業の発展に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、本県の酪農は、規模拡大が進み、令和2年度の平均飼養頭数は、10年前の約1.4倍となっております。これは酪農家をはじめ貴連合会の努力の賜物であると改めて敬意を表します。

また、貴連合会におかれては、全国に先駆けて積極的に牛乳の輸出に取り組まれ、令和2年度輸出実績は、その前年度に比べ倍増しています。国では、2030年の農林水産物輸出額の目標として5兆円という数値を掲げ、「畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業」を措置し、輸出へ取り組む事業者のPR活動を後押ししています。県でも、同事業への取り組みを支援すると

ともに、更なる輸出促進のため県事業を活用し、輸出先国での販売促進用グッズ作成を支援し、「世界と戦える農業」の実現に繋げて参ります。

世界的に流行している新型コロナウイルス感染症により、食料確保の重要性が改めて認識されました。私は農林水産業が盛んな熊本は、食料安全保障の役割を担っていく必要があると考えています。酪農は人間が消化できない草から、栄養バランスのとれた牛乳を生産し、生産された牛乳はヨーグルトやバターへ加工され、我々の食卓に彩りを添えてくれます。人類が利用できない資源から、我々に恵みを与えてくれる酪農は、食料安全保障の観点からも重要な産業といえます。加えて、ふん尿は農地への還元や発電にも利用されるため、持続可能な産業といえます。このような素晴らしい産業を持続させるためには、県民への理解醸成を図ることも必要です。

県でも、理解醸成活動への支援として、酪農女性部が開催する「ちちの日に牛乳(ちち)を贈ろう!」キャンペーンへの支援や、庁内での乳製品販売を行っているところです。引き続き関係者で一丸となり、理解醸成活動や消費拡大に取り組みしましょう。

新しい年が、皆様方にとりまして実り多い一年となりますことを心から祈念申し上げ、新年の御挨拶いたします。



全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈部 洋

新年明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和4年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて令和3年は一昨年に続き、新型コロナへの対応に追われた年になりました。10月以降、幸いにして国内の感染者は激減いたしました。新たな変異株も発生し、引き続き予断を許さない状況が続いております。

国内で一旦は小康状態となったコロナ禍ではありますが、これまでに酪農・乳業界に甚大な影響をもたらしています。感染防止のための規制は緩和されていますが、インバウンド需要の消失はなお継続中であり、長期化した牛乳・乳製品需要の減退により需給が大きく緩和しています。乳製品在庫は過剰な水準にあり、酪農・乳業各団体が総力を挙げて、円滑な広域需給調整、各地の乳製品工場のフル操業、あるいは国内

の消費拡大に向けた活動などの対策により、状況の打開に取り組んでおります。

全酪連といたしましても、昨年11月18日から「I♥MILK action2021」と銘打ち、全酪連グループ全体で牛乳・乳製品の消費拡大活動を展開しています。微力ながらも状況改善の一助になればと考えております。

こうした乳製品需給の緩和という喫緊の問題以外にも、我が国の酪農は、酪農家戸数の減少や、飼料原料価格の高騰、輸入粗飼料のコンテナ不足など、多くの課題を抱えております。

全酪連は昨年新たに策定した将来ビジョンの中で、消費者の食卓が牛乳や乳製品によって笑顔で満たされるように、酪農家の食卓もまた笑顔で満たすことを、我々が実現したい未来として掲げています。

この実現に向け、引き続き全国の酪農生産者・会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、DMS(酪農家経営管理支援)システムを活用した各酪農経営の生産性向上の支援や、昨年8月に発足させた(一社)全酪アカデミーの活動を通じた後継者確保・育成の支援などの具体的な活動により、日本の酪農の振興と発展に寄与していく所存であります。

とりわけ若い後継者、担い手の方々に元気を与えるような、夢のあるメッセージを発信していくことも私の勤めであると考えております。

最後になりますが、熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長
中 村 隆 馬

新年あけましておめでとうございます。

熊本県の酪農家の皆様並びに熊本県酪連役職員の皆様におかれましては、令和4年の新年をお健やかに迎えのとお慶び申し上げます。

昨年は5、7、8月の局地的な集中豪雨、また9月には北部九州に台風14号の襲来と自然災害に見舞われました。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

一昨年に感染が確認された新型コロナウイルスは、ここ数十年の経済発展を一気に巻き戻し、感染の拡大と収束を繰り返しており一向に鎮静化の兆しが見えません。日本においては急速に進んだワクチン接種の効果からか最近になって新規感染者数が激減していますが、海外のワクチン先進国においてはワクチンの効果が薄れ、最大の新規感染者数が確認されるなど新型コ

ロナウイルスは猛威をふるっています。昨年中は感染拡大を防ぐために緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が幾度となく発令され、経済活動は制限を余儀なくされました。飲食店等の営業自粛や外国人の入国制限は業務用牛乳・乳製品の消費を減退させました。また比較的堅調であった巣ごもり需要といわれる家庭内消費も経済活動の再開によって最近になってふるわなくなりました。消費の減退と夏場の冷涼な気候から生乳生産が上振れして生乳需給も大きく緩和し、年末年始と年度末には処理しきれない処理不可能乳の発生も懸念されています。乳製品在庫も現在の見通しでは3年度末には過去最高水準まで積み増しになる見込みとなっております。

厳しい生乳需給の状況を乗り越えるためには、酪農乳業が一体となって在庫削減対策に取り組まなければなりません。我々酪農家においては皆様の協力による生産抑制対策や消費拡大・酪農理解醸成活動がとて重要になってきます。またこのような状況を乗り越えるためには指定団体の需給調整機能を最大限発揮する必要があります。そのためには酪農家の皆様の協同精神や組織の結束が必要になりますので、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、年頭にあたり皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



熊本県酪農青壮年部協議会
委員長
松 田 仁

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また平素より、当協議会の事業運営につきまして、多大なご理解ご協力を頂いております事に心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと依然として新型コロナウイルス感染症拡大の脅威が収まらず、様々な活動を自粛せざるを得ない我慢の一年となりました。また、酪農情勢につきましては、配合飼料および輸入粗飼料の値上げによる生産コストの上昇、長雨の影響による自給飼料の収穫量低下、生乳の需給緩和等が生じており、皆様の経営への影響を懸念しております。

そのような情勢の中、当協議会では一般消費者への理解醸成や酪農家の知識取得に向けた活動に努めました。6月の「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」では無料配布のラインナップに初めてLL牛乳を

加えて実施したことで、コロナ禍以前よりも多くの数量を保育園等へ配布し、たくさんの園児の笑顔をもたらすことが出来ました。8月の「夏季酪農大学」では、『熊本県下の酪農組織整備について』と題して講演を開き、リモート講演となりましたが、幅広く県内各地域の関係者が組織整備の現状や、今後酪農家の生活にどのような影響があるのか等について認識するきっかけになったのではないのでしょうか。

さらに、11月には「酪農ふれあい体験交流事業」を20名程度の園児を対象に実施し、園児達の笑顔や「牛乳を飲みたい！」という言葉に励まされ、元気をもらいました。一昨年は感染症の影響により多くのイベントが中止となったため、「今年こそは！」と私達が出来ることを考え・実行したことで、少なからず人々の元気と酪農業界の活性化へ繋がり、協議会の役割を実感したところです。

昨年は衆議院の解散、岸田内閣の発足など大きな転換があり、酪農情勢については、今後様々な変化が予想されます。生乳の需給緩和についても引き続き留意する必要があります。少しでも良い方向へ進むよう当協議会でも積極的に協議し、活発な理解醸成活動等を実施致します。そして、会員の皆様の経営が豊かになるよう努めて参りますので、今後一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も皆様方にとって良い年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農政治連盟

委員長

東 吉次郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、会員の皆様にはご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み一定の効果が期待されるものの、世界規模での拡大は経済活動に今なお深刻な打撃を与えています。酪農・乳業界でも生乳生産が回復するなか、コロナ禍による業務用牛乳の減少や巣籠り需要の停滞などから生乳需給は緩和状態であり、年末年始の処理不可能乳回避に向けてご協力いただいているものと存じます。また、国内の脱脂粉乳やバター等の乳製品在庫は、過剰傾向で推移しており今年はその解消に向けた取り組みが急務な状況です。さらには、飼料価格の急激な高騰、生産資材、燃油費の大幅な上昇と将来の不安が増し、廃業の助長が懸念されます。政治面では、一昨年発足した菅政権が退陣し岸田政権が発足、米中の政治的、経済的対立、半導体不足による国内経済への影



熊本県酪農女性部協議会

会長

稲田 仁美

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、会員の皆様、各関係機関の皆様には日頃より女性部活動に対しまして、多大なるご理解ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

さて、昨年の令和3年においても新型コロナウイルス感染症のリスクが高まる中、常にソーシャルディスタンスを保ちながら、何か活動ができないかと模索した1年となりました。6月の「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」については、密を避けるため一般消費者への理解醸成活動を行うことができず、県庁への訪問も叶いませんでしたが、リモートで蒲島知事と牛乳の贈呈式を催すことができ、コロナ禍での活動方法を見出しました。8月の「夏季酪農大学」についても感染者数の増加により入場を規制した中での実施となりましたが、リモートを活用することで遠方の方も参加でき、多くの方々に講演を聴いて頂くことが出来

響など経済安全保障に向け大きな変革を迎えました。

本連盟では年末年始の処理不可能乳回避と牛乳消費拡大への理解醸成活動として、フードバンク熊本（こども食堂等）へのL1牛乳の贈呈を決定しました。1月に製品をお届けする予定です。皆様のご理解を改めてお願い申し上げます。

このような中、農水省および県選出国會議員への要請活動を実施するなど、コロナ禍による制約を受けながらも、令和4年度酪農政策・予算確保に関する要請書を提出し、コロナ禍感染症対策、ヘルパー制度や施設整備への支援、指定団体機能の維持と消費者への理解醸成等について要請活動を実施いたしました。

また、昨年10月実施の第49回衆議院議員選挙におきましては、本連盟推薦の3名が当選を果たすことができました。皆様のご支援に改めて御礼を申し上げます。さらに、本年7月には第26回参議院議員選挙が行われます。本連盟の公認・推薦候補の当選を果たすべく改めて皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

一定の落ち着きを見せているとはいえ、まだまだ先の見えないコロナ禍ですが、酪農経営の安定の為、予算獲得ならびに政策の実現に向け、関係機関・団体とも協調し、一致団結し組織運動に邁進して参ります。今後とも会員ならびに関係者各位のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ました。

しかし、感染者数の急増により「熊本県乳牛共進会での理解醸成活動」、「酪農女性ミニバレーボール大会」については止むを得ず中止致しました。一般消費者および会員の皆様と親睦を深める機会が減少したことは非常に残念であり、感染症の早期終息を願うばかりです。

なお、今年2月4日に「牛乳・乳製品を使った料理コンクール」、2月24日に「酪農女性の集い」を開催予定としております。前者においては、感染症対策として書類審査のみの開催となりますが、皆様からの数多くの応募をお待ちしております。後者においては、熊本県内を中心にご活躍されているシンガーソングライターの「MICA」氏による記念講演を計画しております。感染症対策を実施し、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

近年、酪農を取り巻く環境は著しく変化し、皆様も苦慮されているかと存じますが、私たち女性酪農家に何ができ、どのように酪農業界を盛り上げていけるのかを模索し、一般生活者へ「安全・安心」な牛乳を提供する使命感のもと、活動が制限される中でも会員が一致団結し、女性ならではの知恵を絞り、より多くの活動ができるよう本年も精力的に努めて参ります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この新しい年が佳き年になるよう心より祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県乳牛改良同志会

会長

米野 浩二

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より同志会活動に対しまして、ご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年も、一昨年同様、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年でした。国内の感染者数は5月と8月にそれぞれ第4波・第5波のピークを迎え、緊急事態宣言も発出されました。1年延期となった東京オリンピックは、異例の無観客開催となり、人の移動や物流も最低限となったことで、国内経済は大きな打撃を受けました。秋以降、感染者数は大幅に減少しましたが、新たな変異株の発生で、依然として油断できない状況が続いています。

また、酪農情勢においては、コロナ禍を主な要因とした生乳需給の緩和により、年末年始の生乳出荷抑制が要請されたことに加え、原油や粗飼料、各種資材の高騰が続くなど一層厳しい状況となっています。

そのような中、本同志会としては、感染者数が落ち

着いた11月に牛乳消費推進活動及び熊本県ホルスタインショウを開催しました。

前者は、牛乳の消費拡大を目的に、熊本市の下通アーケードでらくのうマザーズのLL製品を約1,000本無料配布しながら、酪農業界の現状を訴えたことにより、消費者への理解醸成にもつながったと考えています。

後者の熊本県ホルスタインショウについて、地域の共進会としては約2年ぶりの開催となりました。コロナ禍での運営ということもあり、参加者や関係者の皆様には不便な点、配慮が行き届かなかった点があったと存じています。しかし、本同志会の大きな目的の一つである、同志との研鑽・交流の場を久々に持てたことは大きな実績であり、本県酪農の未来につながるものだったと確信しています。今年も3月に熊本県B&Wショウの開催を計画していますので、今回の経験を基に、より良いショウが開催できるよう準備を進めてまいります。

前述したとおり、酪農情勢の先行きはより一層不透明さを増しています。そのような中、安定した酪農経営を求める上で、乳牛の改良はさらに重要度を増していくと考えています。同志会としましても、それぞれの改良方針も多様性に富むなか、様々な情報の発信や意見交換を行い、会員一同、本県酪農の先導的役割を担うことができるよう活動していく所存です。

最後になりましたが、本年も昨年同様、関係各機関の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶と致します。



熊本県酪農部長連絡協議会

会長

梁池 朋幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、医療提供体制の逼迫などにより、これまでにない社会不安に陥りました。また、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、観光業や飲食業は低迷し、東京オリンピック・パラリンピックが無観客で開催されるなど経済活動は大きく制限されました。

酪農・乳業を取り巻く情勢におきましては、生乳生産は増産対策に加え、8月の季節外れの長雨・冷涼な気候により都府県を含め全国的に増産基調で推移しました。一方、消費は長引くコロナ禍による業務用需要の回復の遅れや天候不順により、需給緩和の傾向が続

いています。脱脂粉乳・バターの更なる在庫積み増しによる生乳増産体制への影響が懸念され、更に、飼料や燃料といった生産資材価格の高騰により経営環境が悪化するなど、先行きが見通せず酪農現場への影響が心配されます。

本協議会としましては、例年、熊本の酪農経営の充実を目標に様々な活動を展開しておりますが、昨年コロナ禍で制限された中での活動となりました。視察研修や専門農協協議会との合同研修会は相次いで中止となりましたが、感染拡大が落ち着いた12月に単独研修会を開催することができました。研修会には九州生乳販売農業協同組合連合会の稗島常務と有村次長を講師に迎え、生乳需給をめぐる情勢や新たな加工原料乳生産者補給金制度における生乳取引の現状についてご教授いただき見識を広めることができました。

今後も本協議会では、酪農業の恒久的発展と酪農経営の安定を図るため、酪農生産者の一層の団結を目指します。今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、その状況を注視しながら、県内地域の関係団体との積極的な交流を図るとともに、らくのうマザーズ及び各協力組織と連携し、酪農・乳業に係る情報収集や課題解決に向け邁進してまいりますので、皆様のご協力をお願い致します。

最後になりましたが、今後も変わらぬご理解ご協力を賜りますとともに、本年が皆様方にとりまして倅多き良き年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



熊本県酪農ヘルパー利用組合
組合長
生 山 力

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本組合の事業に対しまして、格別なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種や治療薬の開発等により、世界経済が一気に進展している状況にある中、新たな変異型ウイルスの発生により国内では第6波に備えた準備も進められ、ワクチン接種の進展とともに、感染状況が鎮まりをみせ活動制限が緩和したことで、人流が回復し消費活動に好転の兆しが見られました。

一方、酪農情勢は、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により貨物船の入庫の遅れ等が発生し飼料原料の価格変動で配合飼料価格が高騰しました。さらに、急激な需給緩和により国のバターや脱脂粉乳の在

庫が過剰となったことで、年末年始の処理不可能乳の発生回避に向け、より一層の消費者への理解醸成活動や生産者への生乳生産抑制への協力をお願いなど酪農経営にとって予断を辞さない状況となっています。

このような中、現在、本組合の酪農ヘルパー人員につきましては24名で運営しており厳しい雇用状況です。新たに、“デーリィサポート熊本”という愛称を設けるとともに独自のホームページを作成し、求人ポスターを熊本県畜産課の協力を得て募集活動を実施していくこととしております。また(一社)酪農ヘルパー全国協会の事業を活用して、ヘルパー職員の定着化に向けたコンサルティングを取り入れ、新人職員の研修の在り方や酪農作業に於ける情報の共有に向けた取り組みを実施していくこととしております。

当組合に対する申込需要は年々増加傾向にある中、酪農ヘルパー要員が不足していることで、お断りせざるを得ないことも多くあり、大変なご迷惑をお掛けしておりますことを心苦しく思う次第です。是非、皆様方の近隣に酪農ヘルパーに興味のある方を当組合役員までご紹介頂けると幸いです。

今後も皆様の負託に応えていけるよう酪農ヘルパー事業の体制強化と充実に向けて努めて参りますので、ご理解の程よろしくお祈りいたします。

最後に、本年が皆様にとりまして健康第一とした稔り多き年でありますように、ご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農専門農協協議会
会 長
山 田 政 晴

初春に謹んでお慶びを申し上げます。会員皆様におかれましては、心新たに新年の寿ぎをお迎えのことと拝察致します。

新型コロナウイルスの世界的感染は昨年も同様にして我が国社会・市民の不安をあおり、11月以降の落ち着きのなかにも、最悪期からの回復や経済再興を期待し続けた一年でした。

酪農乳業界においては、急速な生乳需給の緩和が進行し、飲用不需要期の処理不可能乳発生も危惧されるなど、業界あげての危機感に迫られました。生乳増産が全国的に進む一方、コロナ禍での業務用需要は激減、乳製品の過剰在庫に加え、生乳出荷の抑制や生産資材の高騰も相まって、酪農経営をとりまく環境は非常に厳しい事態を迎えることとなりました。

コロナ禍の今こそ、酪農家離脱や生産基盤弱体化阻止を生・処・販・官民あげた取り組みが必要です。また、緊急的消費拡大対策や何れの対策も生乳廃棄を回避するとの目標が掲げられています。酪農家にとって

の増産抑制が規模拡大・省力化への投資・営農計画に影響があることは間違いありません。但し、業界全体で克服する厳しい試練を、酪農家も一緒になって乗り越えていかなければと思う次第です。

こうしたなか、本協議会は年度当初の全体会議から幾度も、本県酪農が進める組織整備進展への課題抽出を行い、会員皆様との取組みや協議の場づくりに向けての検討をいただきました。

このことは生産現場の振興を図ることと酪農家を支える組織の再編整備も、重要な酪農対策の課題のひとつだからです。

ご案内のとおり、組織整備対策の一環として、岡山県の酪農組織についての全体研修を行うとともに、熊本県立農業大学校の中村校長を招聘し、熊本県農業の情勢や後継者づくりに係る、活発な意見交換を行う講習会等も行ってきました。

本年はコロナ後の需要回復や生産基盤の拡大も期待し、当協議会も新たな展開を目指したいところです。必ずや本年こそ、感染症収束の下、コロナ禍で痛感した生乳生産を維持し、守ることの大変さ・重大さを最大限の活力エンジンに変換し、その増大を図りたい、酪農家同士一堂に会し酪農危機を一体で乗り越えてきた、その連帯感をもって、会員皆様との活動を進めていきたいと考える所存です。

わたしどもの活動が酪農経営の一助となりますよう、また、本年が皆様にとって、より良き年となりますよう祈念申し上げ、私の新年のご挨拶と致します。



熊本県乳用牛群検定組合

組合長

内ヶ島 賢 勇

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、組合員の皆様及び関係各位におかれましては当組合の事業に対しまして、格段の御支援御指導並びに御協力を賜り心より深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の進展や新薬の提供で一筋の光明があった一方、変異株ウイルスによる感染拡大という新たな問題も発生しており、その終息は未だ見通せない状況です。

日本経済は、昨年10月の緊急事態宣言解除に伴い、飲食や宿泊など外出関連業種を含めた経済活動の再開が進み、緩やかではあるものの回復傾向にあります。

酪農を取り巻く環境は厳しく、海上運賃上昇や為替相場の変動により飼料価格が高騰していることに加

え、入船遅れにより数量も十分に確保できず、経営を圧迫しています。また、巷で噂された生乳生産抑制はひとまず落ち着いたものの、未だ予断を許さない状況であり、不安は尽きません。

そのような中、当組合では、国・県・(一社)家畜改良事業団、熊本県酪連、各会員組合のご協力を得ながら毎月の立会検定を中心に、乳牛の改良や酪農経営の改善等に取り組んでおります。県内でも約7割の方が牛群検定に加入されており、検定農家と非検定農家の乳量データでは1頭当たり年間約2,000kgの差があることから、牛群検定の優位性は顕著に見られます。そのため、非検定農家の方は、検定料金が6カ月間無料になるお試し検定を活用した検定加入をぜひご検討ください。なお、通常検定は夕・朝の2回立会が必要ですが、毎月夕・朝交互に1回のみ立会で済むAT検定もごございますし、今年度もATタイマー設置費用に対する30,000円助成を実施しております。乳量だけを追い求めるのではなく、健康的で無駄のない効率的な飼養管理を目指すために牛群検定を活用していただければと思います。

最後になりますが、牛群検定を通じてそこで得られる各種データが酪農家のみなさんの経営改善、生活の安定につながるよう今後とも関係団体の御指導を受けながら事業を進めてまいります。

年頭にあたり、酪農家・検定組合員並びに関係者の皆様にとりまして今年が幸多い年となりますように祈念し、新年の挨拶といたします。

～酪農家の皆様へ～



FAXからメールに



FAX同報

切り替えませんか



- 携帯やパソコンで最新情報をいつでも、どこでも確認できる！
- 家族みんなで登録・情報共有！
- ペーパーレスで経費削減！



仮登録はコチラのQRコードから空メールを送信

*読み取れない場合は、s2401@j.bmb.jpへ空メールを送信
*送信後、システムに入力すると登録完了です！



お問い合わせは経営支援課まで
☎096-388-3516